



時に、指導者であることを飛び越えて**東中生を誇りに思う**ことがあります。今回の「東中祭・文化のつどい」はまさにそんな思いにさせてくれました。生徒のはち切れるような若さとひたむきで誠実な落ち着きが特にそう感じさせてくれました。

「開祭セレモニー」では、何が始まるのかドキドキさせる動画でスタートです。動画のほとんどは生徒がタブレットで作成しました。その才能に驚かされます。動画の最後の場面で生徒会執行委員が体育館の扉を開けようとする、画面を飛び出して大勢が一気に体育館に入場し、いきなり**有志によるダンス**が始まりました。

会場は驚きとともに、拍手や手拍子が湧き起こりました。体育館2階のベランダからもダンスで盛り上げる子がいます。こんなことが今まであったのでしょうか。

その後、生徒会長の話があり、正式なスタートです。

最初の出し物は**毎年好評の「英語スピーチ」**。今回も3組の子が、「ヒロシマ」「詩人茨木のり子」「お茶摘み」をテーマに、堂々と表現豊かにスピーチしてくれました。各組が終わるたびに、インタビューの時間がもたれ、英語で質問されたことに英語で応える時に、教師にまでマイクが向けられ、**たじたじになる先生も**いました。文化レベルの高い素敵な時間でした。



そして次に、今年度からの新企画で、総合的な学習の時間の「学び発表」を学年ごとに行いました。

1年生は東中校区の魅力について、2年生は職場体験について、3年生はSTG sの取り組みについて発表しました。とくに初披露となる**「東中ラジオ体操」**を会場が一つになって行いました。来賓の方もご協力ありがとうございました。

